

令和2年度 さいたま市立海老沼小学校 自己評価書

校長 宮本江津子

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 「児童の学力・学習状況」において、学校課題研究で基礎基本の定着を図ることを学校課題研究の主題として実践を行う。また、児童一人ひとりの状況を把握し、実践の成果を生かして、児童の基礎アップを図る。
- (2) 「児童の安全・安心」において、児童が安心して登校できる学校、いじめ・不登校ゼロを目指し、児童理解に努めるとともに教職員間の連絡・相談体制を密にしながら、積極的かつきめ細やかな生徒指導と教育相談を組織的に行っていく。交通安全指導や防災教育、学校課題研究の主題のひとつである安全教育のさらなる推進を図る。
- (3) 「教員の授業」において、学校課題研究の主題を基礎学力の定着と安全教育の推進とし、新学習指導要領に基づいた教育課程と評価方法を整える。指導方法の工夫や研究の実践成果だけでなく、「よい授業」についてのアンケート結果を生かして、指導力の向上を目指す。
- (4) 「学校における働き方改革」において、学年ごとに月あたり2度のハッピーデーを設け、定時退勤することを目標とする。業務のしわ寄せが他に行かないように、学年ごとに持続可能な業務改善について検討することとする。

2 評価結果について

- ・「授業に進んで取り組んでいる」について肯定的に回答した児童が90%を超えている。教員が日々、工夫・改善しながら授業を展開していると考えられる。一方、「主体的に楽しく学ぶための学習活動や体験学習を充実させている」について肯定的に回答した保護者は約80%となっている。
- ・「ルールを守る」「安全に気を付ける」について肯定的に回答した児童は約95%に上っている。学校課題研究を通じた、教職員の不断の努力が児童の意識向上につながったと考えられる。「いじめや差別をしない」については、93%の児童が肯定的に回答している。年間を通した「いじめ撲滅」の指導が結果に表れたと考える。
- ・「よい授業」のアンケート結果の学校平均は、授業マネジメントが17.3、基礎アップが17.4、授業スキルが16.9、児童生徒の活動が16.7と、どの因子も昨年度のさいたま市平均値を上回っている。
- ・「働き方改革」については、約80%の教職員が肯定的に回答している。肯定的な回答でない20パーセントの教職員を含めて、学校一丸となって、働き方改革に取り組む必要がある。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・業前の時間を用いて、国語と算数の基礎基本を身につける取組を継続する。学年に応じた学習プリントやドリルを用い、繰り返し基礎基本の定着を図る。特に図形の求め方の記述や、減法を基に除法に関して成り立つ性質の記述など、昨年度からの課題である、「自分の考えを論理的に書く」ことについて、少人数指導を行う等、引き続き指導方法の改善を行っていく。
- ・「自ら考え判断し、安全安心に生活できる児童の育成」のテーマの下、学校課題研究で安全教育についての実践を行った。実践について検証し、今年度の成果や課題を来年度以降に生かしていく。いじめ防止への取組は、引き続き迅速かつ誠意をもって、丁寧に対応していく。必要に応じて外部機関との連携を図りながら、組織的に進めていく。
- ・児童と保護者の肯定的回答の割合に差が出ているのは、児童の活動が保護者に伝わっていないなど情報の周知不足が考えられる。児童一人ひとりにタブレットが配置されることを踏まえ、ICT機器を活用して学校の情報の積極的な周知を図る。
- ・「よい授業」のアンケート結果は、昨年度のさいたま市平均値を上回っているが、学校課題研究の主題と係わる「基礎アップ」の数値に伸びが見られなかった。実践の成果と課題を見直すとともに、経験豊富な教員から経験の浅い教員へ指導の手だてや工夫について伝えていく場を設け、児童が主体的、共働的に取り組める学習活動を意図的に設定することが必要である。
- ・業務改善については、他校の実践や他業種の取組など、本校で取り組めそうなものについての情報を集め、教職員に諮り、持続可能な取組となるものを模索していく。